めいろうこどもえん　１１月園だより

２０２１年度 年主題〈共に喜んで～すべての歩みの中～〉

0･1･2歳児11月 主題　「おいしいね」「ありがとう」

月のねがい

◎保育者の「ありがとう」という祈りに、うれしい気持ちを重ねる(0)◎秋の実りを共に喜び味わう(0)◎保育者や友だちとの交わりがある園の生活を楽しむ(0)◎神さまがくださったたくさんの恵みを味わうことを通して感謝する(1.2)◎いろいろなことに興味を持ち、触れ、感じながら、安心して遊ぶ(1.2)◎自分を自由に表現し、そのことを受け止められて過ごす（1.2）

3･4･5歳児11月 主題　「深める」

月のねがい

◎秋から冬への自然を五感を通して感じながら、神さまからのたくさんの恵みに感謝する(3)◎体験したことを、ごっこ遊びや物作りなどで再現して楽しむ（3）◎葛藤を感じる場面で、保育者や友だちに思いを表し、共感してもらったり、自分で折り合いを付ける経験をする(3)◎成長させてくださる神さま、実りの時をくださる神さまに感謝する(4.5)◎自分で感じ想像し工夫し、創ったり表現したりすることを深める(4.5)◎友だちと心を合わせて、相談したり、アイディアを出し合ったり、思いの違いを調整しながら喜んで遊ぶ(4.5)

今月の聖句　「感謝の心を 持つ人になりなさい。」　コロサイ3：15

「『ありがとう』は魔法の言葉」と言われることがあります。それを口にする本人も、それを耳にする聞き手も、共に嬉しい気持ちになる、心が朗らかになるからです。聖書も私たちに「感謝の心を持つ人になりなさい」と数多くの箇所で勧めています。

日本語の「ありがとう」を漢字では「有難う」と書きます。そこから分かるように、ありがとうの由来は「有難し」にあるようです。「有難し」とは、「有る事が難しいような事があった＝非常に珍しい幸福なことが起きた」、「普段無いようなことが有った事を嬉しく思う」という意味です。ある都市伝説によると、ポルトガル語の「オブリガード（obrigado)」が語源という説（bを省くと、ローマ字読みでオリガドがアリガトウに聞こえた？）もあるようです。種子島は1543年にポルトガル人によって火縄銃が伝来した地です。もしかしたら、種子島から「ありがとう」と言う習慣が始まったのかもしれません。

「有り難う」は、「難（困難)」が「有る」と書きます。困難に遭ったのに、感謝する。困難が自分を大きくしてくれる事に思いを抱いて、感謝を述べるという意味になります。やっと新型コロナウィルスが収束しつつあります。これがそのまま完全な終息に繋がって欲しいですが、専門家は寒くなると第６波が来るだろうと予測しています。まだまだ気は緩められません。今までも様々な困難がありました。しかし、そのような困難の中にあっても、困難を乗り越えて、感謝する思いを持つということは、私たちの人生を豊かにする大切な要素だと思うのです。　　協力牧師　池田基宣

１１月の行事予定

2日（火）	給食試食会（すみれ）
4日（木）	学校へ行こう（年長児）
6日（土）	役員会
10日（水）	秋の一日遠足・弁当日
12日（金）	１１月誕生会
17日（水）	給食バイキング
24日（水）	ｸﾘｽﾏｽ会予行・弁当日
27日（土）	入園説明会（11:00～）

１２月の行事予定

4日（土）	クリスマス会
8日（水）	もちつき大会
未定	絵本の会クリスマス公演
14日（火）	１２月誕生会･試食会(たんぽぽ)
17日（金）	終園式（１号午前保育）
28日（火）	御用納め

給食バイキング

令和４年度入園説明会
１１月２７日（土）11時より
１号入園願書受付開始
１２月１日（水）
ご紹介を宜しくお願いします！

退職のお知らせ

長期に亘りお休みをいただいておりました岩﨑しずく保育教諭が９月をもって退職をいたしました。短い間でしたが、大変お世話になりありがとうございました。

＊新スタッフ紹介＊

かわはら　ちえみ

新しくスタッフが仲間入りしました。笑顔のステキな保育補助の先生です。どうぞ宜しくお願いします♪

よく遊んでよく動く！！

こすもす組の週報でも書いたのですが、運動会が終わった後、子どもたちがとにかくダイナミックによく遊ぶようになりました。こすもす組は木登りが大好きな子たちが多く、初めは色々なところから飛び出ている木の枝にぶつかっていたり、降り方がわからなくなって、担任が助けに行ったりしていました。でも今は知恵を働かせ、あちこち飛び出ている木の枝もよけるようになり、手と足の位置をちゃんと移動させながら降りることができるようになりました。ガジュマルの木のツルも、ターザンができるぐらいの強度があり、子どもたちは、シンプルなこの遊びを飽きることなく何度も繰り返し楽しんでいます。

たんぽぽ組は、よくオニごっこをする姿を見ます。昨年度の年長児は「先生あそぼう！オニごっこしよう！」と先生を交えて遊ぶ姿がありましたが、今年の子どもたちは、自分たちでオニ決めやルールを決めて楽しむ姿があります。

私たちが目指す「主体的に遊ぶ」という姿が少しずつ見られるようになりました。普段の保育活動もそうですが、行事経験による力も大きいと思います。行事は、達成まで保護者の方にたくさんの協力を頂いたり、保育者のエネルギーも必要です。子どもたちも、普段の生活より少し窮屈な思いをすることもあります。しかし、それぞれの行事を終えるごとに知恵や力が与えられ、達成感を味わうことで、一回りも二回りも成長していきます。子どもたちの成長する姿を見ていると、これらの行事の大切さを日々感じているところです。

２学期も残りあと2ヶ月足らずです。子どもたちの内面や外から見える成長を見逃さず、応援していこうと思います。

森山

学校へ行こう！

試食会

秋の一日遠足

体幹を鍛える

台風の上陸どころか接近もほとんどなかった十月。まだ安心はできませんが、屋外での様々な行事や活動が、心地よい環境の中で実施できたことはまことに感謝でした。秋晴れの日中は暖かい木漏れ日と優しい風に包まれて、子どもたちは元気いっぱいに過ごしています。コロナも少し落ち着いている中、大きな行事も無事に終え、職員はホッとしているところですが、気持ちは早くもクリスマス会に思いを馳せています。

例年、すもう大会が近づくと、子どもたちと蹲踞（そんきょ）や四股（しこ）踏みと立会（たちあい）の構えを練習します。それぞれに難しいのですが、同年齢の中でも差が出るのが蹲踞でしょうか。普段の生活では、ほとんどすることもなくなった所作である蹲踞。意外なことに、茶の湯の言葉である蹲踞（つくばい）も同じ字をあてています。茶室に入る前に手を注ぐ手水鉢（ちょうずばち）や周囲の石などの庭園の一部のことだそうです。手を注ぐ際にしゃがむ所作から来ているのでしょうか。また、剣道でも勝負前に蹲踞の姿勢で剣先を合わせます。大相撲の力士共々凜々しくとても格好いいですよね。爪先立てた踵の上に、お尻をのせて膝を開いて背を伸ばす型。子どもたちの体幹を整えるには蹲踞は有意義な運動の一つだと思います。

そもそも体幹とは、体の中心となる部分。つまり、腹筋だけでなく、背中や腰周りなどの胴体部分全般を指すそうです。そしてその役割は「体を支えて安定させる」こと。体幹が強いと綺麗な姿勢を保つことができ、体の歪みからくる歩き方の癖を防ぐこともできます。また、体を支える力が弱いと、無理な姿勢で知らず知らずに内臓に負担がかかっていることがあるとか。体幹が強いと体の中の内臓を正しい位置に保つことができるので、内臓の働きが活発で新陳代謝が良くなるのです。体の中心となって手足の動きを調和させているのが体幹なので、全ての動きは体幹が起点となっていると言っても過言ではないようです。二足歩行をする人間は、バランス感覚を足の裏で感じ取り、まっすぐに立っているか、左右に傾いていないかなど、体をコントロールしています。体幹が強いと体の軸がぶれないため、そのバランス感覚を感じ取りやすく、重心の取り方が安定し、スムーズに重心を移動させることができるのです。軸がぶれない体は、とっさの衝撃を安定して受け止め、その力を逃すことができるので怪我につながりにくいのです。体を支える体幹が弱いと、同じ姿勢を長時間キープするのは難しいので、頻繁に体勢を変えたり無理な姿勢を続けることで集中力が途切れやすくなってしまいます。体幹を鍛えることで、子どもの集中力が上がったという話はよく耳にします。

園でも運動遊びや体操を通して身体機能を高めていますが、一番自然に取り込めるのは、やはり自由遊びに集中しているときではないでしょうか。起伏のある坂道や土手の上り下り、雲梯渡りやスクーター漕ぎなど、指示もなく友だちと夢中になって取り組んでいる遊びの中こそ健やかな体は作られていくんですね。寒暖の差を感じるこの頃。突然の発熱も多くみられる時期です。子どもたちはなるべく薄着を心がけ、うがいや手洗いの励行を続けて冬に備えてまいりましょう。

学園長

『友だちとの関わり方を覚える時期に　大切にしたいこと』

友だちと一緒に遊ぶことが増え、やり取りも頻繁に行われるようになってくると「友だちや保育者に自分の思いを表しながら、一緒に遊ぶことを楽しむ」ことをねらいとしていきます。自分の思いを友だちにどんどんぶつけていく自己主張が強い子どももいる一方で、友だちに自分の思いを表しにくい子どももいます。友だちの思いや提案を受入れる子どもは、優しい子でいい子だと思われがちな一方で、自己主張が強すぎる子どもはわがままと捉えられ、友だちの思いも受入れるように指導されることもあるでしょう。自己主張と自己抑制はどちらも大切ですが、そこには育つ順序があるように思います。友だちと本格的にかかわりはじめたこの時期には、思いを抑えるより、思いを表現する喜びを味わうことを大切にしたいと思っています。

安心して思いを表現できるクラスの雰囲気を作りながら、一人ひとりが自分の思いを表すことのできる生活を支えることで、友だちと一緒にあそぶ楽しさを味わってほしいと願っています。

松本信吾：編著　（広島大学附属幼稚園）